

目指す学校像	学ぶ喜びのある学校 生徒の夢をはぐくむ学校 生き生きと活動する学校 保護者・地域とともに活動し信頼される学校
--------	--

重点目標	1 生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める 2 生徒が安心して学ぶことのできる誰一人取り残さない教育環境づくりに努める 3 保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める 4 質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学、英語と全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○「STEAMS TIME」でPBLとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施している。 (課題) ○学力の向上に対して、保護者、地域共に特に関心が高く、それぞれの状況に応じた学力と体力の向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語、数学、英語と2極化の傾向にあり、「個別最適な学び」への取組が必要である。 ○「STEAMS TIME」の充実による探究的な学び、協働的な学びの実施。	・教育データを活用した学力や体力の状況に応じた個別最適な学びの実現 ・「STEAMS TIME」の実践による、教科横断的な視点にたつた探究的な学びの実現	①「個別最適な学び」を実現するために教科等で研究を行う。 ②「個別最適な学び」を実現するための組織体制を確立する。 ①STEAMS担当を中心に研究を行い、3年間を見通した計画を立てる。 ②生徒が協働的に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指す「STEAMS TIME」を展開する。	①教科毎に成果と課題をまとめ、発表する。 ②学期に1回以上、教科研究会を行う。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○昨年度、スポーツ振興センターに申請した医療機関の受診は〇〇件であった。 (課題) ○生徒の自己肯定感が高い結果が出ているが、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○個別最適な学びをより充実させるためのさらなる有効活用が課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・いじめや不登校に係る事案の未然防止、早期発見・早期支援、再発防止のための組織的な体制づくり ・「自助」・「共助」が主体的にできる生徒の育成。	①個に応じた対応をするための環境の充実化を図る。 ②情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を90%以上とする。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を90%以上とする。				
3	(現状) ○学校運営協議会を立ち上げ、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、コミュニティ・スクールの実施がスタートし3年目を迎えたところである。 (課題) ○今年度は、地域ぐるみで本校生徒をはぐくむ体制をつくるため、本校教育活動の質的向上を図るためのPDCAサイクルが機能するように学校運営協議会を運営していく。 ○学校運営協議会をはじめとする地域住民等からの意見を積極的に取り入れ、本校教育活動への地域住民等の参画意識を高める。	・学校運営協議会での熟議を通じた教育活動の質的向上と、地域住民、保護者等との信頼関係の深化 ・「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けた学校評価を基盤とする学校経営の改善・充実	①学校運営協議会を計画的に実施する。 ②教育活動を積極的に公開する。 ③地域諸団体と連携し、地域教育資源を活用した教育活動の実施。	①学校運営協議会を年3回設定する。 ②学校運営協議会委員、保護者、地域に教育活動を公開する場を年3回以上設定する。 ③年3回以上設定する。				
4	(現状) ○一昨年度から「お互いのよさを認め合う生徒の育成 ～教育活動全体を通じた人権教育の実践～」という研究主題で研究を進め、生徒の人権意識の高揚を図ってきた。 ○今年度から『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、「Well-being」の向上』という研究主題で研究を進める。 (課題) ○生徒の実態に応じた学びの在り方が必要である。 ○相手を思いやり、お互いのよさを認め合う力の育成が課題である。	・「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換教育を目指した授業力の向上 ・教育活動全体をととした計画・組織的な人権教育の在り方の研究による人権意識の高揚	①『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、「Well-being」の向上』という研究主題で研究を進める。 ②人権教育主任を中心に組織的に研修会を行う。関係学校、関係機関と連携した地域ぐるみの人権研修を行う。	①2回行う生徒アンケートで該当項目の結果を1回目よりも向上させる。 ②学期に2回以上、人権教育の視点を意識した授業に関する研修を行う。				